

戦後80周年を迎えて

8月7日～9日まで開催された原水爆禁止世界大会（長崎）に参加しました。「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を～人類と地球の未来のために～」というテーマで開催されました。

いま、日本の政治の舞台で先の戦争が「侵略戦争」であったことを公然と否定する言動が目立っていることも大きな不安につながっていると感じています。

私はあらためて、侵略戦争から何を学び、どう向き合うのかみなさんとごいっしょに考えていきたいと思っています。ぜひ、お声をおかけください。



世界大会2日目、核兵器のない平和で公正な世界を～市民運動の共同と交流～に参加

核兵器のない世界を草の根から

被爆者の長年の運動と国際世論によって核兵器禁止条約が発効し、批准国が広がっています。昨年は日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。一方で、核大国も加わった紛争が世界で続き、アメリカの科学雑誌が人類の「終末時計」を史上最悪の89秒前として、警鐘をならしたように、核使用の危機に直面しています。いまこそ、平和を望むすべてのみなさんと力をあわせ、この逆流をくい止めたいという思いです。

「核抑止」ではなく「核廃絶」を

世界の核兵器保有数は2025年1月時点で12241発あり、9か国が保有しています。

中でもアメリカ・ロシアで1万発余を占めています。日本政府は核の非人道性を認めるものの、核兵器の使用を前提とした「核抑止」の立場にたって、アメリカの「核の傘」に依存し続けています。核抑止とはいざという時には核兵器を使用するということ前提とした議論ではないでしょうか。核抑止から抜け出す必要があると考えます。

いかなる場合にも核兵器が再び使用されないことを保証するには核抑止ではなく核兵器廃絶しかありません。



8月1日、議長室長に和歌山県議会が日本政府に対して「核兵器禁止条約への参加・署名・批准」するよう原水協の申し入れに同席

☆無料生活相談所☆

医療や福祉・くらし・法律などお気軽にご相談ください。

＜場所＞奥村のり子相談所

和歌山市中246-3

＜時間＞金曜日、午後1時30分から

午後4時まで受け付けています。

＜電話＞073-488-9693

